



『学校給食週間』について

『学校給食週間』は、戦争で中断した学校給食が再開されたことを記念してできたものです。「学校給食についての理解を深め、給食がさらに盛り上がるような取り組みをすること」が期待されています。

◆『学校給食の歴史』と『給食献立の移り変わり』◆

明治22年 (1889年)
山形県の私立忠愛小学校で、お弁当を持てられない子どものために食事を提供したのが、日本の学校給食の始まりとされる。

(おにぎり、焼き魚、漬物)

お坊さんによる学校です。
中心愛小中学校はお寺の中にある

大正12年 (1923年)
9月1日に関東大震災が発生。義援金により給食が実施され、学校給食の価値が広く認められるようになる。

(五色ごはん、栄養みそ汁)

山形県から日本全国へ!!
学校給食はよい取り組みとして取り組まれています。
日本全国に広まっていきます。

昭和17年 (1942年)
昭和16年に太平洋戦争が始まると、食料が不足し、全国的に給食が中止され始める。昭和19年に6大都市の小学生に特別配給物資による学校給食が実施される。

(すいとんのみそ汁)

日本中で食料が不足し、当時の6年生は今の4年生の体のだるさしかなかっただろうです。みんなお腹をすかせていました。

昭和40年 (1965年)
昭和38年に「ソフトめん」が登場。また、昭和39~43年ごろにかけて、脱脂粉乳から牛乳へと切り替わる。

(ソフトめんミートソース、牛乳、フレンチサラダ)

「カン食」が販売されていきます。来てくれない人だよな!!

昭和25年 (1950年)
アメリカから寄贈された小麦粉で8大都市の小学生に「パン・ミルク・おかず」の完全給食が実施される。

(コッペパン、ミルク(脱脂粉乳)、カレーシチュー)

学校給食をさらに盛り上げていきましょ!!
『学校給食週間』としてまたか決まりました。

昭和22年 (1947年)
昭和20年に戦争が終わり、子どもたちの栄養状態を改善するため、この年から支援物資による学校給食が全国で開始される。

(ミルク(脱脂粉乳)、トマトシチュー)

この支援物資は「ラフ物資」と呼ばれています。
世界中からの支援は5年間も続きました。

昭和51年 (1976年)
白米(ご飯)が正式に導入される。当初は炊飯するための設備が整わず、おかずを作る釜で飯を炊く施設が多かった。

(カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆで卵)

『完全給食』に反対したのが給食のパン屋さん。
現在中心の学校でパン屋さんがご飯も作ってくれています。

ちなみに沖縄県では...

- 昭和24年にミルクのみの給食。
- 昭和30年にミルクとパンの給食。
- 昭和41年に今のような『完全給食』となりました。

沖縄県の『完全給食』第一号は1962年7月、豊原市上田小中学校で、続いて同年11月、名護市東江小中学校で行なわれました。

●現在の学校給食は...

「栄養バランスが整えられた食事をみんなで一緒に食べる」ということを通して、食に関する正しい知識や、望ましい食習慣を身に付けること、社会性や感謝の心を育むこと、など様々な事を学ぶ「生きた教材」としての役割を担っています。

『完全給食』とは、主食(米やパンや麺)、ミルク、おかずがある給食のこと。

教育活動は大切!!
栄養士さん
先生さん